

## 事業報告

自 平成 22 年 4 月 1 日

至 平成 23 年 3 月 31 日

### I. 事業の概況

#### 1. 旅客輸送について

- ・平成 22 年度における富山地域の経済は、依然厳しい状況にあるなかで、個人消費や企業の設備投資に持ち直しの動きがあったものの、年度末の東日本大震災の影響が懸念され、原油高騰等による景気への影響、デフレ状況や雇用情勢の動向等が県内経済に与える影響にも留意が必要であり、先行きについては楽観できない状況にありました。
- ・当社を取り巻く経営環境は、こうした経済情勢の下で、東日本大震災以降、利用者数が伸び悩み、運輸収入を中心に厳しい状況が続きました。

#### (1) 鉄道・軌道線

- ・平成 22 年度の当社の業績は、平成 21 年度と比較し、「環境」や「鉄道復権」ムードにも支えられ好調な月が多くありましたが、企業業績の低迷や夏の記録的猛暑、更には、東日本大震災などの影響により、利用者が伸びず、結果的には、ほぼ横這い状態となりました。
- ・そうした中、鉄道事業者の基本責務である安全運行につきましても、最大限の注意を払っており、乗務員との懇話会、乗務員研修、安全管理会議及び内部監査を実施するなどして、安全運行に万全を期してまいりました。
- ・このような取組みの結果、ヒューマンエラーに起因する事故等はありませんでしたが、自然災害による事故等が 2 件発生しました。

- ・ 1件目は、8月31日の夕方、落雷により軌道区間信号機故障が発生いたしました。これに対しては、9月3日の朝までの4日間、富山駅北及び奥田中学校前電停に社員を配置するとともに、安全確保のため全便に指導者役の社員を乗車させ、手動による信号切り替えを行いました。これらの対応により、運休などお客様にはご迷惑をかけることなく、無事、復旧にこぎ着けることができました。
- ・ 2件目は、1月31日の早朝、大雪のため運行不能となり、運休した件についてです。今年の冬は記録的な大雪となりました。このような中、当社では、線路上に雪が積もらないように夜間走行させるとともに、除雪車も出動させるなど、雪対策を実施してまいりましたが、1月30日から1月31日にかけては、それまでの積雪の上に予想を超える降雪に低温が重なったため、圧雪が車両の低床部に接触し、運行が困難となったことから、朝5時半の始発より、富山駅北から城川原までの区間は午後零時近くまで、また、城川原から岩瀬浜までの区間は午後2時近くまで運休することとなりました。
- ・ このため、利用者の皆様に多大なご不便をおかけしてしまったことは大変申し訳なく思っており、この事を教訓とし、除雪車の運行方法や代替バスの早期手配等、反省すべき点については今後に活かしていきたいと考えております。
- ・ 営業面につきましては、富岩水上ライン・エコボートと連携した周遊券を販売し集客に努めるとともに、車内等での忘れ物を活用した傘の無料貸し出しサービスを開始するなど、お客様へのサービス向上を図ることも積極的に取り組みました。特に、8月19日からは、国の緊急雇用対策事業を活用し、ポートルム・アテンダントを車内に設置し、車内でのアナウンスや観光案内

及び高齢者・障害者への乗降補助等を行っており、県内外のお客様から大変好評を得ているところであります。

- ・また、当社ホームページを改修し、新たにアテンダントによるツイッター及び、よくあるご質問コーナー（FAQ）を開設することにより、積極的に情報を発信いたしました。
- ・この結果、平成22年度のポートラムの輸送人員は、1,843,960人で、1日平均の輸送人員は5,052人（実利用者数は1,578,330人、1日平均4,324人）となり、平成21年度とほぼ同数となりました。

## （2）フィーダーバス

- ・平成19年度に市から当社が引き継いだフィーダーバスの運営につきましては、平成22年度は、利用環境の向上のため、蓮町のフィーダーバス停留所に雨風避けのための囲いパネルを設置するとともに、各停留所の時刻表の張替えを行いました。更に、3月にはバス沿線各戸に利用を促すチラシを配布しました。
- ・これらの結果、依然として厳しい経営状況にあるものの、平成22年度のフィーダーバス利用者は123,044人で、1日平均337人となり、平成21年度に比べ約4%増となりました。

## 2. 施設の整備等について

### （1）軌道整備工事

- ・振動・騒音の抑制及び保守作業の軽減を図り、安全と快適な旅客輸送を目指し、木製の枕木をコンクリート枕木へ交換する工事や25メートルレール2本を溶接し長尺化する工事を継続して実施しており、22年度末での進捗率は、70.3%となりました。（施工済約4.6km、未施工約1.9km）

## (2) 踏切保安設備更新工事

- ・当社では20箇所の踏切を有しており、JR時代から使用し、老朽化した踏切機器を年次計画に基づき順次更新しております。今年度は豊田踏切警報器及び遮断機、千原崎踏切遮断機の更新を実施しました。

## (3) 消雪工事

- ・冬季の降雪対策として、地元町内会等と協力し、交換駅で唯一消雪設備がなかった大広田駅に消雪装置を設置いたしました。これにより、全ての交換駅に消雪設備が整うこととなりました。

## (4) 細霧システム（ミスト）設置工事

- ・記録的な猛暑が続いたため、乗降客が多数利用する富山駅北駅に細霧システムを設置し、打ち水効果による冷涼な空間を演出いたしました。

## (5) AED設置工事

- ・お客様がより安心・安全にご利用いただくために、自動体外式除細動器（AED）を城川原駅待合室に設置しました。また、これに伴い、社員全員が心肺蘇生の重要性を認識し、日常生活での人命救助にも役立たせるために使用方法等に関する講習会を受講しました。

## 3. ICカード「パスカ」について

- ・パスカ発行枚数は、今年度（3月末まで）約4,500枚、累計で約45,000枚となっており、平日では約80%の方がパスカで精算されております。
- ・また、当社では利便性向上のため、富山地方鉄道㈱のICカード「えこまいか」との共通利用を行っておりますが、平成23年3月5日から、路線バスにICカードが導入されたことに伴い、当社の「パスカ」も路線バスでの使用を可能としております。

#### 4. ライトレールグッズ及び広告事業について

- ・当社では、チョコQやネクタイ等のライトレールグッズを販売しており、平成22年度は約1,100万円の売上げとなりました。
- ・また、平成22年度は、新たに新商品として「扇子」「クリアファイル」「ハンドタオル」「携帯ストラップ」を開発し、販売促進に努めまし、さらに、コンビニエンスストア「ポプラ」と提携し、期間限定で「ポートラムむすび」を作成したところ好評を得、約4,000個の売上げがありました。
- ・広告事業につきましては、新たな広告媒体である車内の液晶モニターが堅調なことから、約1,800万円の売上げを確保できました。

#### 5. 各種イベントの実施について

##### (1) 企画車両（ラッピング電車）等イベントの実施

- ・路面電車サミット、クリスマス、バレンタイン等に合わせてラッピング電車を運行し、公共交通や沿線の活性化に取り組みました。
- ・また、平成22年8月26日から9月30日まで、富山市内の家庭の太陽光発電システムによって発電されたグリーン電力を使用した電車を運行し、「環境」について広くアピールしました。

##### (2) 電停の花の装飾について

- ・富山駅北電停において、フラワーポット等による装飾を季節やイベントに合わせて年5回行いました。電停を花で飾ることによる企業イメージの向上と、魅力ある新しい公共交通のイメージを示し、新たな利用者の開拓を図りました。

### (3) 運転体験会について

- ・富山エクセルホテル東急と運転体験ツアーを共同で企画し運転体験会を15回に渡り開催したところ、延べ121人の参加がありました。この企画は鉄道ファンを中心に好評であり、今後も富山への誘客イベントとして継続開催していきます。

### (4) 下奥井駅前花壇の整備について

- ・下奥井駅前花壇において、近隣の富山化学(株)の従業員や富山聴覚総合支援学校の生徒の皆さんの協力を得て、初夏には黄花コスモスなどの種まき、秋にはチューリップの球根の植え付けをおこない、地域ぐるみで車窓景観の向上に努めてまいりました。

## 6. 発生事故の件数

- ・平成22年度では、軌道内での事故発生は、永楽町交差点及び奥井町交差点などで、自動車の無理な右折による事故など、6件発生しました。

## 7. 当社への視察者について

- ・開業以来、当社は日本初の本格的LR Tとして注目をあび、22年度も辻元国土交通副大臣をはじめ、各方面より多くの視察者を受け入れました。

平成22年度視察者数 820人

(開業からの累計視察者数 9,618人)

以上の結果、当期の営業成績は輸送人員約184万4千人、旅客運輸収入は約2億4千900万円、当期純利益は約2,600万円となりました。

## 鉄道・軌道運輸営業成績

種 別	平成22年度	平成21年度	
営業キロ	7.6キロ	7.6キロ	
営業日数	365日	365日	
輸送人員	1,843,960人	1,843,564人	
旅客運輸収入	249,537千円	248,291千円	
運輸雑収入	61,208千円	54,099千円	
運輸収入合計	310,745千円	302,390千円	
営業費	366,901千円	356,107千円	
一日平均	運輸収入	851千円	828千円
	1キロ当り運輸収入	112,021円	109,008円
	1キロ当り営業費	132,264円	128,373円

## フィーダーバス運輸営業成績

種 別	平成22年度	平成21年度	
営業キロ	10.8キロ	10.8キロ	
営業日数	365日	365日	
輸送人員	123,044人	117,983人	
旅客運輸収入	14,763千円	14,650千円	
運輸雑収入	—		
運輸収入合計	14,763千円	14,650千円	
営業費	60,270千円	61,666千円	
一日平均	運輸収入	40千円	40千円
	1キロ当り運輸収入	3,745円	3,716円
	1キロ当り営業費	15,289円	15,643円

## 8. 当社の対処すべき課題

- ・当社といたしましては、今後予想される厳しい経済情勢や事業環境を踏まえて、経営の合理化や効率化を一層推進するとともに、国等の補助制度も積極的に活用することにより、より強固な経営基盤の確立を図ってまいります。
- ・もとより鉄軌道事業の根幹をなす安全の確保は、最優先事項であり、他社の鉄道事故のほとんどがヒューマンエラーに起因することを肝に銘じ、社員一人ひとりが漫然とすることなく、基本事項の確認を徹底するなどし、安全・安心・快適な輸送の確保に全力をあげることを第一の目標といたします。
- ・さらに、沿線活性化のため地域の皆様と一体となったイベントを開催するほか、駅構内での花壇の整備や線路沿線の遊休地での植栽による緑化推進に

より、魅力ある、環境にやさしい公共交通機関となるように努め、一層の利用増加を図ってまいります。